

## 中国玻纖、九江でガラス纖維増産 = 年15万トン規模 - 江西省

10日付の中国紙・中国証券報（B1面、D9面）によると、上海証券に上場するガラス纖維大手、中国玻纖（本社北京市）は、風力発電設備用の需要増などに対応し、江西省九江市の子会社「巨石集団九江」で設備を増設する方針だ。増産量は年15万トン規模で、総投資額は約19億7000万元。10日、公告で明らかにした。

増産設備の稼働時期は、年産7万トン規模のものが2009年11月、同8万トン規模が10年中を見込んでいる。

一方、中国玻纖が同日に発表した08年決算は、売り上げが前年比25.2%増の約40億0800万元、純利益が同18.9%減の2億4400万元の増収減益となった。増設設備の相次ぐ稼働により08年7月時点で年産規模90万トンと、世界最大のガラス纖維メーカーになったという。（時事）



### 第66回

### 研修を着実に業務向上に結びつけるためのポイント②

野村综研(上海)咨询有限公司

今回は研修で学んだ内容を業務で活用するための環境整備について述べる。

研修は通常2日前後かけて実施する。参加者は2日間という短い時間の中で新しい知識・スキルについて「知る」ことはできるけれども、「使いこなせる」レベルにまで到達するのは極めて難しい。むしろ研修後に実際の業務の中で実践することが、研修で教えられた知識・スキルを「使いこなせる」ようになるためには重要である。研修後に実際の業務の中で実践することを促すためには、参加者本人の意欲を引き出すのと同時に、実践しやすい環境を会社が整えることも大切である。



主任コンサルタント  
劉沫真

#### ◇上司のフォローアップ重要

環境整備について具体的に考えてみよう。まず研修後の上司によるフォローアップがとても重要である。例えば下記のように丁寧なフォローアップを実施する企業がある。

研修で「知った」知識・スキルをどのように業務で活用するかについて参加者が「行動計画」を作成し、上司と共有する。上司はその後、日常業務の中で行動計画の実践状況をモニターし、適宜本人を指導したり、本人にフィードバックしたりする。このようなPDCA（プラン・ドゥ・チェック・アクション）のサイクルを回すことによって、実際の業務の中で参加者の実践を促している。もちろんフォローアップができるよう、研修内容について事前に情報を共有しておく必要がある。

#### ◇「行動計画」を作成・公表

研修参加者が業務の中で学習内容を実践するよう促す役割は、周りの同僚が果たすこともできる。例えば米ゼネラル・エレクトリック（GE）では上記のケースと同様、研修で「知った」知識・スキルを業務でどのように活用するか研修が終わった後に各参加者が「行動計画」を作成する。その後部門の中で、つまり同僚の前で、自分の行動計画を「宣言」する。このようにすることによって、「私の行動計画の実践状況を周りが見ている」という意識を参加者に与え、しっかりと行動計画を実践することを促す。

#### ◇社内講師が定期指導

研修テーマが専門的な知識・スキルである場合、社内講師が定期的にフォローアップする取り組みも効果的である。例えば販売スキルの研修を実施した後販売業績が高い“スター”を社内講師に指定し、社内講師と参加者の間で定期的に座談会を開き、意見交流する。これにより研修で学んだ販売スキルを実際にどう活用するかについて、自社の現場での経験やノウハウを共有し、実践につなげやすくなる。